

4月定例記者会見の概要

- 1 日時 令和5年4月5日(水)10時00分～11時00分
- 2 場所 本庁舎3階 第一会議室
- 3 出席者 <報道機関>
 - 朝日新聞社 南相馬支局(南相馬記者クラブ会員)
 - 読売新聞社 南相馬通信部(南相馬記者クラブ会員)
 - 福島民友新聞社 相双支社(南相馬記者クラブ会員)
 - 福島民報社 南相馬支社(南相馬記者クラブ会員)

計 4 社

< 市側 >

・市長・総務部長

(テレビ会議)

・新田副市長・常木副市長・教育長・小高区役所長
・鹿島区役所長・復興企画部長・復興企画部政策担当理事
・市民生活部長・健康福祉部長・こども未来部長・商工観光部長
・商工観光部企業立地担当理事・農林水産部長
・農林水産部整備担当理事・建設部長・総合病院事務部長
・教育委員会事務局長

計 18 人

(司会進行)秘書課長

(会議記録)秘書課広報広聴係

【市政報告】

皆さん、お集まりいただき誠にありがとうございます。

4月を迎え、市役所も新たな体制・顔ぶれとなり、令和5年度の業務を開始いたしました。今年度も引き続き、市民と共に、市政運営に取り組んでまいりたいと考えております。皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

はじめに前回2月21日の記者会見から最近までの出来事についてご報告いたします。

まず、南相馬市第三次総合計画についてです。

お手元の資料「南相馬市第三次総合計画・概要版」をご覧ください。4月から市の全ての計画やビジョンの基本となる南相馬市第三次総合計画がスタートしました。

まちづくりの基本目標を『未来の南相馬の姿』として、「100年のまちづくり～家族や友人とともに暮らすまち～」を掲げ、今後8年間で、市民の皆様が震災と原発事故からの復興を実感できることを目指します。この目標の実現に向けては今

後8年間のまちづくりの基本姿勢として、「つなぐ」、「よりそう」、「いどむ」の3つを掲げ、7つの政策の柱に沿って施策を進めます。「期待感」、「ワクワク感」。未曾有の事態に、愚直に、そして柔軟に復興や新しい挑戦に取り組む姿や、成果が南相馬市の強みとなっています。

「かけがえのない未来のために、今私たちは何をすべきなのか、何ができるのか」、みんなで夢や希望をひとつひとつ形にしていきたいと思います。

本日、記者の皆様にお配りした市第三次総合計画の概要版資料はパンフレットとして、4月15日号の広報紙と共に全戸配布を行う予定です。多くの人にご覧いただきたいと思います。

次に、組織と人事についてです。

令和5年度は、第三次総合計画の着実な推進を図るため、適切な組織機構の見直しや人事配置を行いました。

組織機構の見直しとしては、専門性の強化や意思決定の迅速化を図るため、経済部を再編し、「農林水産部」と「商工観光部」を設置しました。

また、人事配置に関しましては、

- ・ 新庁舎の建設
- ・ 市街地の活性化
- ・ 地域子育て支援拠点の整備
- ・ 鹿島サービスエリアを含む地域資源を活用した地域活性化

こうした課題への取り組みを強化するため、担当課長や係長を配置しました。多様化する各種課題を着実に、かつきめ細やかに遂行していけるよう取り組んでまいります。

次に、東日本大震災追悼式についてです。

3月11日に、東日本大震災追悼式をサンライフ南相馬で執り行いました。ご遺族など120名の皆様にご参列いただき、犠牲となられた方々に対し、哀悼の誠を捧げてまいりました。

次に、市議会定例会についてです。

3月28日に第1回南相馬市議会定例会が閉会いたしました。

この議会では、令和5年度当初予算など議案40件について、全て原案どおり可決されました。

次に、南相馬市プロジェクト研究について申し上げます。

3月29日に「南相馬市プロジェクト研究最終発表会」をさくらホールで開催しました。14名の研究員が「南相馬鹿島サービスエリア」を核とした地域活性化策の発表を行いました。

研究員の皆さんには事業構想大学院大学のご指導の下、本業のかたわら、全24回のカリキュラムを通じてそれぞれの事業構想を構築していただきました。

提案の中にはすぐに実現できそうなものも複数ありましたので、市としても積極的に事業化を後押ししてまいります。

市では、福島イノベーション・コースト構想の更なる推進を図るため、令和5年度も引き続き、事業構想大学院大学と連携し、新規事業により新たな価値を創出するイノベーション人材の育成に向けた「南相馬市プロジェクト研究」を実施します。

4月21日まで研究員を募集しておりますので、ご応募をお待ちしております。

次に、原ノ町駅前整備事業についてです。

令和2年2月から整備を進めてまいりました原ノ町駅前広場及び駐車場が完成し、4月1日にオープンセレモニーを開催しました。より魅力的で利用しやすい玄関口を目指し、新たに相馬野馬追をモチーフとした時計塔を設置、駐車場の拡充や歩道の確保、バリアフリー化などを行いました。

次に福島国際研究教育機構についてです。

4月1日、浪江町に福島国際研究教育機構、F - R E Iが開所しました。今後、F - R E Iの取り組みによる効果が浜通り地域をはじめ、広く波及することを期待しております。

市としましても、隣接する自治体として、国や関係自治体、大学、企業、各種団体の皆様と連携し、しっかりと後押ししてまいります。

続いて今後の主な話題について申し上げます。

はじめに、工場の竣工についてです。

4月12日にエイブル山内株式会社様の南相馬工場の竣工式が下太田工業団地で開催されます。

新工場の操業開始に伴い、10人の方の雇用を予定しており、その内8人の方が南相馬市民の方と伺っております。

既設の信田沢、下太田、復興工業団地の空き区画は残り僅かとなっております。市外の企業から本市へ寄せられる産業用地の需要に応えるため、下太田工業団地の拡張や飯崎産業団地・小高復興産業団地の整備を進め、引き続き、企業誘致を通じた雇用の確保を図ってまいります。

次に、春のイベントについてです。

4月15日及び16日に、実行委員会主催による「第30回万葉の里かしま春まつり」が開催され、16日には鹿島御子神社遷宮祭も行われます。

4月29日には、相馬野馬追執行委員会主催による「第78回相馬野馬追振興春季競馬大会」が開催されるほか、原町区の旭公園及び駅前通りでは「春の市民まつり」が開催されます。

春の行楽にぜひ足を運んでいただければと思います。

次に、新型コロナワクチン接種についてです。

まずは、お手元の資料「令和5年度の新型コロナワクチン オミクロン株対応2価ワクチン接種について」をご覧ください。

市では国の方針などを踏まえ、令和5年度も集団接種を行います。実施スケジュールについては、5月下旬の高齢者施設巡回接種を皮切りに、6月上旬から、65

歳以上の方、基礎疾患のある方、医療従事者などを対象に集団接種を行い、相馬野馬追の開催前には接種を完了する予定です。9月以降は、基礎疾患のない方も含めたすべての方を対象とした接種を行う予定です。

最後に、令和4年福島県沖地震についてです。

お手元の資料「令和4年福島県沖地震による住宅被害と復旧支援について」をご覧ください。

令和4年3月16日に発生した福島県沖地震から1年が経過いたしました。この場をお借りして、改めて、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。災害からの生活再建、復旧に向けた支援制度の実施状況などについて説明いたします。

まず、り災申請件数は、3月15日時点で4千932件となっており、り災状況に応じて、災害見舞金を支給させていただきました。

次に、補助金額に市独自の上乗せをしている支援事業の交付件数については、一部損壊住宅修理支援事業が1,229件、屋根耐風改修事業が69件となっております。

次に、公費による被災家屋等の解体撤去事業については、申請件数420件の内、約48%となる201件が完了しています。残りの家屋についても、令和5年度中の完了を予定しています。

市では引き続き、住宅等の修繕や被災家屋の撤去などに係る支援制度の申請を受け付けております。申請を検討されている方は、ぜひ窓口へご相談いただきますようお願いいたします。

【質疑応答】

質問1:

今年の春から夏ごろに、福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出が予定されています。市で風評被害対策など、新たに予算を立てて対策を行う予定はありますか。

回答1:市長

現時点で予定はありません。これまで行ってきた、不安払しょくのための事業や放射線量の測定等が風評被害対策と捉えています。

質問2:

4月1日に浪江町に設立された「福島国際研究教育機構(F-REI)」について、波及効果を高める上でも、市として持続的に要望や課題を発信していくべきと考えています。現時点の市の考えを教えてください。

回答2:市長

市としてF-REIの開催場所などに期待感を持っていましたが、研究成果や人材育成、様々な実証による地域経済などへの波及効果そのものに高い期待感を持っています。これまで国や県に対してF-REIが設置されることの経済効果が浜通り全体に波及することを要望してまいりましたが、引き続き要望をする考えです。

質問 3 :

相馬野馬追の維持・振興に関するアンケートの結果について、市のホームページで公表されたが、記者クラブへの通達がありませんでした。読者の関心が高い話題ですので、相馬野馬追に関する話題は投げ込みという形で発信していただきたいです。

回答 3 : 市長

相馬野馬追の振興は非常に大切な案件です。配慮が足りなかったと考えておりません。申し訳ありませんでした。

今回の発表内容はアンケート結果を速報した形ですので、分析が必要と考えています。分析結果を出す場合は記者クラブへお知らせしたいと思います。

質問 4 :

相馬野馬追の開催時期について、6月ごろまでに開催時期を含めて検討を進めると聞いています。その後の進捗状況を教えてください。

回答 4 : 市長

2月の執行委員会の中で、日程の変更について検討を始めること、また検討会を設置することを提案いたしました。今後関係自治体などと、検討会のメンバーや検討の手順などについて調整を進めており、6月の執行委員会で承認いただけるよう準備を進めてまいります。

質問 5 :

南相馬市第3次総合計画の計画期間が8年となっている理由を教えてください。

回答 5 : 市長

総合計画のうち基本構想は、地方自治法の改正によって策定義務ではなくなりました。一方で、目標を単年度ではなく一定期間で見据えた方がいいと考えたことから、南相馬市復興総合計画 後期基本計画から前期・後期で8年としています。市長の任期が4年であることも踏まえています。

質問 6 :

令和2年に復興庁による試算では、国際教育研究拠点（現・福島国際研究教育機構）の開所によって周辺人口が3～4割増えるなどとしています。その実現性について、地元自治体としてどのように捉えていますか。

回答 6 : 市長

新聞報道等でそのような報道があったことを承知していますし、期待もしていません。筑波研究学園都市や沖縄科学技術大学院大学（OIST）の話を伺うと、試算は夢物語ではないと考えています。F-REIでどのような取り組みがなされるかによって、実現性が出てくる話だと捉えています。

質問 7 :

先日記者発表のあった、市立総合病院の外来リハビリ診療の一部で適切な診療が実施されていなかった件について、どのような点に原因があり、どのように改善していくのか見解を教えてください。

回答7：市長

患者の皆様と関係する皆様にご心配とご迷惑をおかけし、開設者としてお詫び申し上げます。

要因は2つあると考えています。1つ目は、医師・看護師とリハビリテーションに当たる職員、医療事務の三者間の情報共有不足です。2つ目は、医療行為を行う上で必要となる法令・通達・規定に対する職員の意識不足にあります。

今後は情報共有をしっかりと行い、法令を遵守した医療行為に対する職員の意識改革に取り組んでまいります。

質問8：

市内では対面開催の会議が増えてきましたが、マスク着用について市長の考えを教えてください。

回答8：市長

マスク着用については各団体での判断となりますが、市役所は不特定多数の皆様がお越しになる場所ですので、従来通りマスク着用とする予定です。一方で、飛沫防止のパーテーションがあり、相手の方と距離がある場合など感染対策を取ることができる場合はマスクを外すようにしています。状況を見て、メリハリのある対応をしたいと考えています。

以上